

今西先生との思い出

梶山 健

高校3年生の春が過ぎた頃、私は大学で教員免許を取って教職に就くか、あるいは高卒で鉄道職に就くかで迷っていた。小さなころから教職と鉄道職に憧れており、はじめは鉄道職に進もうとした。しかしながら、私の卒業した中等教育学校は開校して日が浅く、就職実績はなかったため、断念せざるを得なくなった。「だったら大学に行って教員を目指そう！」と考え、進路を変更した。ギリギリに始めた受験勉強では、第一志望に受かるはずもなく、第二志望であった神戸学院大学へ進んだ。うまくやれているのだろうかと不安な気持ちが立ち込めながらも新生活がスタートし、教職説明会の場で今西先生と出会った。

「教員免許が欲しいだけの人はただちに帰きなさい。そんな人は受講しなくてよしい。本当に教員を目指す人だけ受講しなさい。」私は、説明会の場で今西先生がおっしゃった言葉を今でも忘れない。この後、数えきれない人たちが、冊子を壇上において去っていったが、私は寧ろやる気が沸き、必ず教員免許を取って教壇に立とうと決意した。

教職課程の登録を行い、最初に受講した教職科目が、今西先生担当の「教職入門」であった。たくさんの学生が受講する中、教職員の職務内容や教職員のあり方、学校を取り巻く環境の仕組みやそのヒミツ、生徒の頃には気づかなかった点など様々な内容を教えていただいた。頻繁に出題されたレポート課題に頭を悩ませたのもいい思い出である。初めての大学の定期試験を終え、成績発表の日に成績を見てみると、お恥ずかしい話ではあるが「教職入門」だけD（不認定）評価となっていた。大変悔しかったが、なぜそうなったか思い返してみると、一度だけレポート課題を出さなかったことがあった。自分が教員になって登壇したとき、生徒に提出物を課しながらも自分自身は提出物を提出しないのは教員失格ではないかと痛感した。これを契機に気を入れ替えて、今西先生の研究室へ質問しに訪ねたり、指導案の添削をしていただいたりなど、数えきれないほどご指導いただいた。他学部かつ他キャンパスに身を置く私であったが、講義や学内でお会いした際にはいつも気にかけてくださり大変心強かったことも鮮明に覚えている。大学を無事に卒業すると同時に教員免許を取得することができ、今日「高校の先生」として学校現場に従事することができている。現場で積み上げてこられたことや教育に関する専門的な知識を丁寧に教えてくださり、かつ手厚くサポートして下さった今西先生に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。